



令和元年度 学校だより

学校ホームページ <http://minamisyo.nagaizumi.ed.jp/>

# みなみっ子

長泉町立南小学校

No. 62

令和2年2月17日

学校教育目標 「夢のある子」～めあてをもってがんばる子～

## 紙切りの技に目がテン。でも、自分の作品にもうっとり。4年生。

おしゃべりしながら  
横顔のシルエットを  
表現しています。

できたよ！



上手に切れたかな？

10日(月)には、紙切り作家、水口千令先生をお招きして、4年生の各学級で「紙切り講座」を開きました。水口先生は、伊豆の修善寺を拠点に活躍されている方です。

千令先生は、病院の事務として働いていたころ、患者さんが病院を去る時に小さな紙切り作品を渡していたそうです。その時に、患者さんたちの喜ぶ顔、「ありがとう」と言っていただけのこと

に感動して、独学で紙切りを本格的に取り組み始めたそうです。11月に「2分の一成人式」で自分の将来を考えた4年生にとって、心にストレートに届くお話が聞けました。人とおしゃべりしながら、その人の好きなこと、特徴をとらえ、紙を切っていくのが千令先生のスタイルです。教室が笑いに包まれても、子どもたちから質問を受けても、先生の手は動き続けます。作品が出来上がると、教室中に「すごい」「似てる！」「細かい！」の

声が続きます。すると、やりたくて仕方なくなるのが子どもです。先生のアドバイスを聞きながら、自分の顔や、雲を中腹に抱える富士山を切り出しました。次々に「先生！」「見てください！」と質問や要求が出てきますが、どの子にも終始、笑顔で「いいじゃないの～」「あら、素敵！」と、優しい言葉かけをする先生。たった1時間だけれど、温かい雰囲気

の創作時間が生まれていました。昼休みには、体育館で4年生に限定せず、全校児童自由参加の中で、紙切りパフォーマンスを行っていただきました。子どもたちが知っているキャラクターを切ると歓声がおき、子どもたちの質問に答える

昼休みには体育館で  
紙切りパフォーマンス

とどよめきが起こっていました。低学年の子が「何回切ってきましたか？」という質問には、「1日で80の作品を作ることもあるし...」と答えたところで「えーっ！」の驚きの声。この日、子どもたちは、好きなことや人に喜んでもらえることが将来の自分につながることを、それぞれの発達段階に応じて実感できたのではないのでしょうか。千令先生、ありがとうございました。

## 今年度最後のふれあいトーク。担任としっとり、1対1の時間。

ふれあいトーク…朝の読書時間の裏で、担任と児童が1対1で何を話してもOKの「トークタイム」が始まっています。今年度3回目ということもあり、子どもたちも緊張することなく、担任とゆったりしっとりと話しているのがわかります。友達や学習についての悩みを話したり、生活態度の前進を確認し合ったり、または全く学校とは関係のない趣味について楽しそうに話し合ったり(これも大事なです)、児童によって話す話題も様々です。6年生では、中学進学を前に、担任がその児童の

中学校でもそのまま伸ばしていきたいところを伝え、それを聞いている子が強くうなずいている姿が印象に残りました。南小では来年度も、この「ふれあいトーク」の時間を大切にしていきたいです。

お互いにニコリ、  
何を話してるのかな。廊下のあちこちで  
担任の先生との  
静かなトークが  
行われていました。